

令和8年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

秦野市教育委員会

1 小学校6年生の調査結果の概要（単位：％）

(1) 各教科の正答率等について ※県及び市の平均正答率は、整数値で国から提供

小学校	国 語			
	令和元年	令和6年	令和7年	令和8年
秦野市	56	64	62	55
神奈川県	61	67	66	61
全国	63.8	67.7	66.8	60.9

小学校	算 数			
	令和元年	令和6年	令和7年	令和8年
秦野市	62	60	50	50
神奈川県	67	64	59	58
全国	66.6	63.4	58	56.4

(2) 結果の分析について

ア 国語について

全国との比較において昨年度の4.8ポイントから5.9ポイントに差が開いています。

設問ごとの解答率を分析すると、知識・技能、思考・判断・表現を問う選択式の設問では、全国と比較しても大きな差は見られませんでした。一方で依然として記述式で「自分の考えをまとめ、表現する」設問に対しては、他の設問に比べて正答率が低い傾向です。自分の考えを文章にまとめ、理由や根拠を明確にして表現する活動を充実させるとともに、友達との意見交流を通して考えを深め、相手に分かりやすく伝える力が求められています。

イ 算数について

全国との比較において昨年度の8ポイントから6.4ポイントへと差は縮まっています。

設問ごとの解答率を分析すると、依然として本市が課題としてきた図形領域の正答率が低く、実物やICT教材を使って図形全体のイメージをもって思考する等、指導の工夫が求められています。また、数と計算領域の設問でも引き続き課題が見られるため、図や数直線の活用や体験活動などを通して、分数や小数の大きさを視覚的に捉え、理解を深めていく必要があります。

2 中学校3年生の調査結果の概要（単位：％）

(1) 各教科の正答率等について※県及び市の平均正答率は、整数値で国から提供

中学校	国 語			
	令和元年	令和6年	令和7年	令和8年
秦野市	71	55	53	60
神奈川県	73	59	55	65
全国	72.8	58.1	54.3	63.9
中学校	数 学			
	令和元年	令和6年	令和7年	令和8年
秦野市	57	48	44	52
神奈川県	60	54	51	59
全国	59.8	52.5	48.3	57.0
中学校	英 語			
	全体	聞くこと	読むこと/書くこと	話すこと
秦野市	4.1/9	1.1/2	2.4/5	0.6/2
神奈川県	5.0/9	1.3/2	2.9/5	0.7/2
全国	4.5/9	1.2/2	2.6/5	0.7/2

※中学校英語では、令和8年度から、紙への解答からタブレットを活用した調査となり、通信量の関係で学校ごとに実施日が異なり、調査の正確性を期すため、同じ難易度で違う問題を解く調査となりました。
秦野市の4.1/9とは、問題数9問に対して、4.1問の平均正答数とみます。

(2) 結果の分析について

ア 国語について

全国との比較において昨年度の1.3ポイントから3.9ポイントに差が開きました。

設問ごとの解答率を分析すると、「単語の活用について理解しているかどうかをみる」等の知識・技能を求める選択式の設問では、全国と同様の正答率となりました。

イ 数学について

全国との比較において昨年度の4.3ポイントから5ポイントと差が開く結果となりました。設問ごとの解答率を分析すると、短答式の知識・技能の正答率は高い傾向にありますが、数学的な表現を用いて根拠を明確に説明する記述式の設問に課題が見られます。

また、小学校と同様に図形領域の設問の正答率が低く、具体的な対策が求められます。

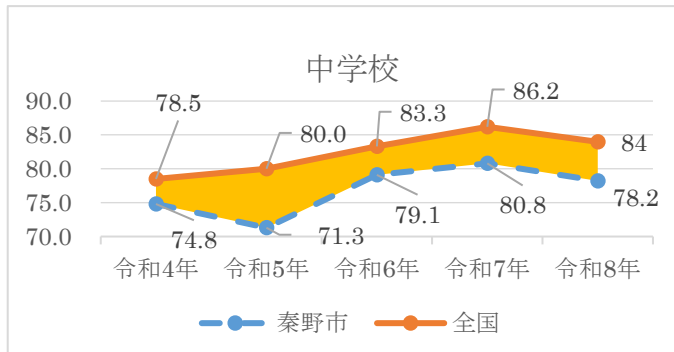
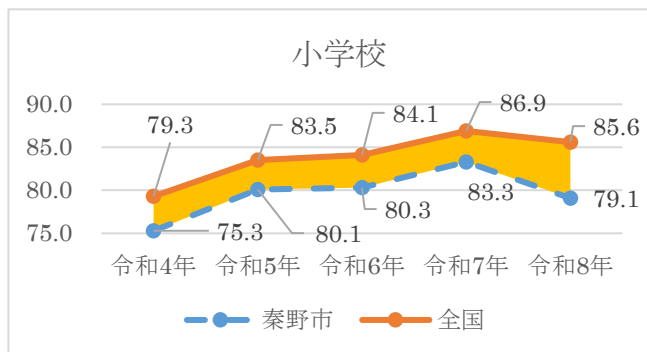
ウ 英語について

領域別では、特に「書くこと」に課題が見られた一方、「話すこと」は全国と大きな差はありませんでした。今後は、学習指導要領が目指す「英語で自分の考えを表現する力」を育てるため、授業の改善を進める必要があります。

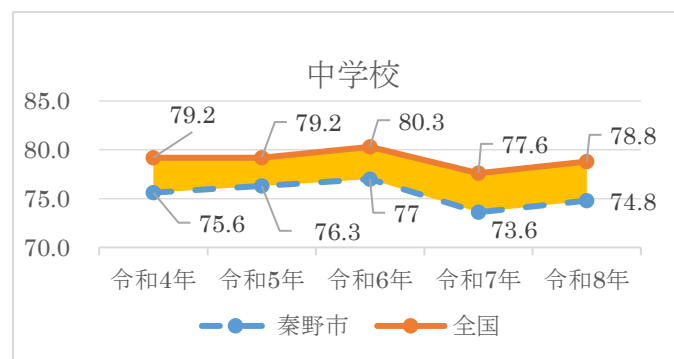
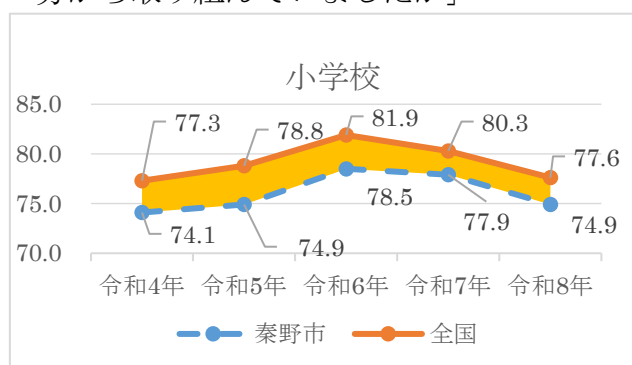
3 質問紙調査結果の概要（単位：％）

(1) 非認知能力に関すること

ア 「自分には、よいところがあると思いますか」



イ 「5年生（中学は2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」



(2) 結果の分析について

ア 学ぶ意欲を支える非認知能力

学習意欲の基盤となる非認知能力の指標として本市が着目している「自分には、よいところがある」では、小・中学校ともに肯定的な回答の数値が下がっており、児童生徒の自己肯定感の向上が急務となります。この項目の肯定的な数値が高かった学校では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」、「学校に行くのは楽しいと思いますか。」においても、多くの児童生徒が肯定的に答えています。日々の学校生活において、教師が児童生徒を承認、賞賛することが、自己肯定感の向上や安心して楽しく学校に通うことにつながっていると考えられます。

また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」では、小学校では肯定的な数値が低くなりましたが、中学校において肯定的な回答の数値が向上しました。義務教育学校モデル校を中心に、小中学校の学びの連続性を意識した上で、自ら課題に向かう機会を大切にし、教師が励まし、賞賛することで、児童生徒が主体的に学ぶ力を身につけられるようにしていく必要があると考えています。

イ 読書活動の重要性

国立教育政策研究所から示された分析によりますと、SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、正答率が低いと示されました。御家庭でも、読書活動の充実も含めて、スマートフォン等に向かう時間について、話し合っていたきたいと考えております。学校においても、引き続き読書活動の充実に努めてまいります。

引き続き、全市的な取組である学びの基盤プロジェクトによる授業改善はもとより、特色ある教育活動の展開や児童生徒への支援を工夫することで更なる改善向上が期待されると判断しています。